

商大グッズ [日本酒・酒饅頭] 名称決定



純米吟醸酒 「小樽緑丘」

おたるりよつきゅう

命名者 / 菊地 寿美恵

決定理由 / 「緑丘」は商大の代名詞として広く認知され、ひびきが良いこと、また、「小樽」の名称が入ることにより、商大だけではなく小樽全体の知名度アップにもつながる。



酒饅頭 「商大饅頭」

しょうだいまんじゅう

命名者 / 木村 貴司

竹内 國雄

梶原 武久

決定理由 / シンプルで親しみやすくひびきが良いこと、また商大の商品であることがわかりやすい名称である。

(敬称略)

これからも、商大らしいイメージの商品を「商大グッズ」として製造販売していく予定です。
アイデアがありましたらどしどしお寄せ下さい。

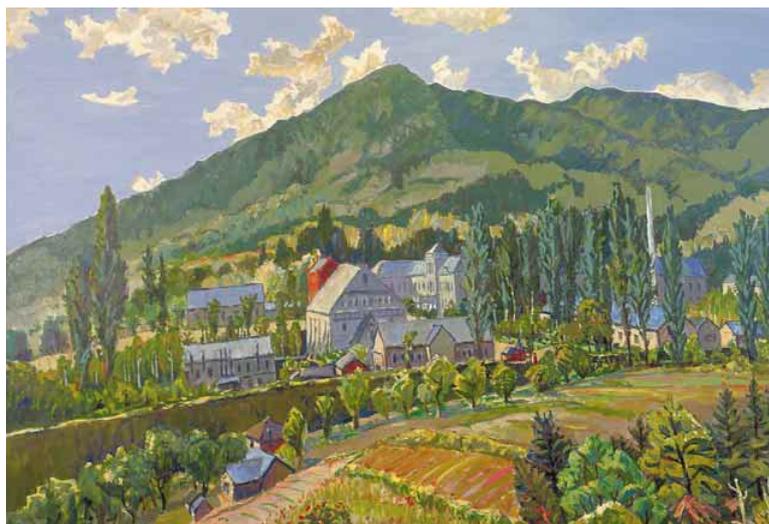


今回は、純米吟醸酒
「小樽緑丘」のラベルを
彩る絵について紹介します。

中村 善策 画 「緑丘回想」

(80号)

学長室所蔵



螺旋階段で有名な旧本館をはじめとする高商時代の建築物は、昭和40年代にあらかたその姿を消した。当時、旧校舎の保存を求め奔走した本学同窓会「緑丘会」は、残念ながらその希望が叶わぬことを知ると、せめてその情景を絵に留めるべく、中村善策に旧キャンパス風景の油絵制作を依頼する。昭和48年に完成した絵は同会より本学に寄贈された。善策は明治34年小樽生まれ、道展創立に参加。その後中央画壇に進出し、二科展、一水会、文展、日展などに出品。日展文部大臣賞、日本芸術院賞など数多くの賞を受けるとともに各団体の審査員を務めるなど、わが国洋画界の第一人者として活躍した後、昭和58年に没した。善策の

絵画は、軽やかなタッチとコントラストの高い色使いに特徴があり、緑を基調とした本作にも、彼らしい筆致が遺憾なく発揮されている。絵に描かれた建物で現存するものは最早ないが、中央やや右下に小さく、現在復元された正門、および画面右に今も聳える煙突が白く見える。注目すべきは、制作依頼時には画面下の畑の位置に建っていた経済研究所が描かれていない点で、これから本作は、おそらく戦前の風景を描いたものであることが推察される。(経済研究所は昭和16年に開所。)高商を扱った写真、絵画は数知れないが、本作は、卒業生の脳裏に刻まれた新緑に照り映える校舎の姿を、最も瑞々しく描き出す一作といえるだろう。